

令和7年度第2回交野市立地適正化計画検討部会 会議録

日 時 令和7年10月20日（月）14:00～15:00

場 所 交野市役所本館3階 第二委員会室

出席者 澤木部会長、芝内副部会長、谷本委員、  
田中委員、加嶋委員、辻岡委員、友田委員、松本委員

竹内（理事兼都市まちづくり部長）、林（都市まちづくり部次長）、  
原田（企画財政部次長兼都市まちづくり部次長）、  
野田（開発調整課長）、古澤（都市まちづくり課長）、  
笠木（都市まちづくり課課長代理）、波多（都市まちづくり課係長）  
中原（都市まちづくり課係員）

欠席者 なし

傍聴者 1名

事務局： 定刻となりましたので、ただ今から令和7年度第2回交野市立地適正化計画検討部会を開催します。本日、委員の皆様におかれましては、公私、何かとご多忙の中、当部会にご参集賜りまして、誠にありがとうございます。私は、本日、司会を務めさせていただきます、事務局の古澤でございます。よろしくお願い申し上げます。

それでは初めに、委員の出欠状況について報告いたします。本日の検討部会につきましては、部会委員8名中8名全員の出席をいただいておりますことをご報告させていただきます。

続きまして、部会長よりご挨拶を賜りますとともに、これ以降の議事につきましては、部会長にお願いしたいと思います。

部会長、よろしくお願いいたします。

部会長： 【挨拶】

本日の会議には、傍聴の申出がありましたので、公開・非公開についてお諮りいたしますが、異議が無いようですので、公開といたします。傍聴者の入室を許可いたします。

事務局から、注意事項についてご説明願います

事務局： 傍聴の方へお願いいたします。事前にお渡しした傍聴要領を守り、審議中は静かに願います。また、携帯電話については、電源を切るか、マナーモードの設定をお願いいたします。

部会長： それでは、案件ごとに議事を進めたいと思います。まず、本日の配付資料の確認を事務局よりお願いします。

事務局： それでは資料の確認をお願いします。

本日配布いたしました資料として、会議次第、計画素案、【資料1】交野市立地適正化計画（素案）について、【資料2】修正箇所・意見に対する回答一覧です。資料の過不足等ございませんでしょうか。

それでは部会長よりお願いいたします。

部会長： それでは「次第」に沿って、議事を進めてまいります。

次第の2「交野市立地適正化計画（素案）について」です。

前回部会におきましては、各章についてご議論いただきました。その後事務局より、いただいたご意見を素案に反映のうえ、9月には庁内への意見照会と大阪府への意見照会を行ったと伺っております。

どのようなご意見をいただいたのか、また、どのように素案に反映されたのかにつきまして、事務局より説明をお願いいたします。

事務局： ご説明します。前回部会では、ご議論いただいたなかでも特に、計画全体を通して「交野の魅力、交野らしさ」が感じとりにくいのご意見をいただきました。庁内や大阪府への意見照会におきましても、多数のご意見をいただきましたので、反映しております。

なお、本日ご審議いただいた後、11月13日開催の都市計画審議会において、正式に素案として報告させていただく予定でありますので、よろしくお願い申し上げます。

以降、内容につきましては、担当よりご説明いたします。

事務局： それでは、交野市立地適正化計画素案について、ご説明いたします。

前回部会以降、庁内および大阪府への意見照会を行い、多数のご意見をいただきました。素案の詳細な内容は前回ご説明しておりますので、前回の部会や意見照会での意見を受け、変更した箇所についてご報告します。

変更があった章は表記のとおりです。2章および5章から7章は「誤記や読みやすさ」といった、軽微な内容の修正を行い、3章と7章は内容の補填を行いました。

まず、軽微な内容の修正箇所についてご報告します。こちらは、計画を見直す中で判明した誤字脱字の修正や、意見照会にて意見をいただき、修正しました。修正箇所については、【資料2】の一覧のとおりです。多数ございますので、一部抜粋で詳細をご説明します。

全体をとおしての変更箇所です。まず、施設名称「地域子育て支援センター」

を「地域子育て支援拠点」、「小中一貫校」を「義務教育学校」に修正しました。次に、現況調査は昨年令和6年10月11月頃に実施していることから、開智幼稚園の開智こども園への移行や、私市駅近くの診療所の閉院等、現況に明らかな変化があった箇所は修正しております。

また、誤字脱字の他、文章や図の見えにくさについての意見をいただいたこともあり、修正しました。

例えば、市域図の市街化区域の区域線は、JR学研都市線と重なっていることもあり、調整区域との境がわかりにくい状態でした。こちらは区域の内側にぼかしをいれることで明瞭化しました。

続きまして、各頁の修正箇所を抜粋でご説明します。

2-12、13の人口密度予測について、参考データは令和2年時点のデータであるため、既に開発が進んでいる調整区域の地区計画区域において、実態とあっていないことについてご意見をいただきました。当該地には既に居住されている市民の方もおられることから、注釈で「実態とあっていないこと」を追記することとしました。

2-26の高齢福祉施設の分布状況について、施設の選定は、日常的な利用が想定される通所型の施設が主な対象としておりますが、一般的に「福祉施設」といえば「入所系」を連想される方も多いため、入所系の施設を含まない理由について、注釈で追記しました。

続きまして、2-27は前回部会においてもご指摘いただいた箇所になります。令和7年4月に開校した「交野みらい学園」のプロットを追加し、「交野みらい小学校」及び「第一中学校」は削除しました。

2-42は、指定避難所、緊急避難場所が令和7年4月に追加されたことから施設数を更新しました。今後も増える可能性があるため、注釈に最新の情報については交野市ホームページを参照するよう追記しております。

続きまして5-6は、前回部会でご指摘いただいた箇所ですが、郡津駅周辺の地域魅力向上区域の範囲が枚方市を含んでいたため、市内のみに修正しております。

また、5-7から9の都市機能誘導区域図においては、「交野みらい学園」のプロットを追加しておりますが、「旧交野みらい小学校」と「旧第一中学校」は、防災面や利活用の面で重要施設であることから、記号を「教育系 その他」として、残しております。

6-35は、土砂災害に対する取組方針を具体的に記載するよう大阪府より意見をいただき、本文を修正しました。

6-36は、防災指針の具体的な取組み「防災力の向上」の具体例として「防災訓練、自主防災組織の活動支援」と記載していましたが、「防災訓練」も実施主体は「市」ではなく「自主防災組織」によるものであるため、「防災訓練」の文言を削除しました。

また、同じく6-36「土砂災害対策」の「砂防堰堤の整備」は、府の整備方針

や進捗状況と整合を図りつつ、優先的・段階的に調整や情報共有を進めていくことを意図して「短期」としていましたが、大阪府では重点化指標に基づく長期的な取組みと考えているため、「長期」に修正しました。

7-1 は、前回部会でもご意見をいただいたとおり、誘導施策における「寺・向井田地区」の説明文が、「新駅の整備や、それにあわせた土地区画整理事業」と、「新駅の整備」が確定しているかのような表現であったため、「新駅の整備や、新駅も想定した土地区画整理事業」に修正しました。

最後に、8-5 は、市民の移動手段の確保の評価の視点として「各地域の個性を活かした暮らしを実現できているか」としておりましたが、本計画策定にあたっての課題や方針においては、「各地域の個性」を掲げておらず、また、評価指標とも整合がとれないことから、修正しました。

続きまして、その他意見に対する考え方についてです。

庁内および大阪府への意見照会においていただいた意見の中には、計画内容に反映されないものもありましたので、それら意見に対する考え方についてご報告いたします。

2-25、都市機能の分布状況において、津田駅前の関西みらい銀行等、市民の利用圏内にある市外の金融機関は、金融徒歩圏の対象としないのか、とのご意見をいただきました。こちらは、他市の計画との整合を鑑み、本計画の検討にあたっては、市外施設は分析対象としない考え方でおります。

2-37、都市浸水想定において、寝屋川流域協議会では計画雨量を昭和32年八尾実績降雨としているが、なぜ想定最大規模を採用しているのか、とご意見をいただきました。こちらは、本市ではより安全側の検討を行うという考え方から、想定最大規模を参考にしております。

5-5、都市機能誘導区域「河内磐船駅・河内森駅周辺」において、誘導施設「大規模小売店舗（3,000 m<sup>2</sup>以上）」のm<sup>2</sup>は売り場面積での想定か。また、関西スーパー河内磐船店（売り場面積2,524 m<sup>2</sup>）とは別の施設を誘導するということか、とご意見をいただきました。こちらは、まず、面積は売り場面積のことを指します。また、誘導施設は別の施設を「誘導」する他、現在ある施設の「維持」を含めた考え方で設定してしております。

5-5, 7、都市機能誘導区域「交野市駅周辺」において、「乳幼児一時預かり機能を有する施設」は、現在立地していないが、誘導施設に含めるのか、とご意見をいただきました。こちらは、誘導施設は「維持」と「誘導」という2つの考え方で決まるため、交野市駅周辺地区の「乳幼児一時預かり機能を有する施設」は、今後「誘導したい施設」という考え方でおります。

6-37、防災指針における【洪水・内水】の具体的な取組みのひとつである「総合防災マップの見直し・周知」について、実施時期の目標が「短期」とされているが、「中期・長期」も継続実施している、とご意見をいただきました。こちらは、総合防災マップの発行自体は継続実施であるが、「見直し」としては、概ね5年程度で実施されることから、短期とする考えです。

続きまして、内容の補填箇所についてご説明します。

前回部会においては、「交野の魅力・交野らしさ」が感じ取りにくいとのご意見をいただいたことから、3章の立地適正化計画における基本的方針と7章の誘導施策において、内容の補填を行いましたのでご報告します。

3章の基本方針においては、3-1の目指すべき将来像に都市計画マスタープランにも記載されている「本市の特徴」として、大阪都心部や京都方面への優れた交通アクセス性、公園やまちなかの農地を活かした、みどり豊かな安全・安心な居住環境、自然に囲まれたレクリエーション環境といった点が他都市との違いを生み出す旨を追記しました。

また、本市の都市づくりの基本的な考え方である「活かすまちかたの」の図を追記し、3-2では、「活かすまちかたの」にこめられた意味を文章で追記することで、「交野らしさ」を表現しました。

7章誘導施策については、前回部会で次のようなご意見をいただきました。・行政計画において、抽象的な記述は問題ないが、交野市の魅力については具体的に表現する必要がある。・具体的な誘導施策が書かれている部分と書かれていない部分がある。・改善だけでなく、現状ある交野の豊かさをどのように維持していくかについても加えるべきである。こうしたご意見を鑑み、具体的な施策例等を追記することで、「交野らしさ」を表現しました。

誘導施策①拠点の役割に応じた機能の充実・強化、「拠点における機能の強化」においては、機能の誘導のみについて記載しておりましたが、「歩きながら心地よさを感じることができるウォークアブルな空間づくりを進める」と追記しました。

誘導施策②子育て層を軸に多様な世代が暮らしやすい居住環境づくり、「心地よく魅力的な、誰にでもやさしい暮らしの環境づくり」においては、区画の広い良好な住環境等、地域の実情にあった住環境の整備を掲げ、具体的な誘導施策例としては、地区計画制度によるゆとりある良好な住環境の維持・向上の他、景観まちづくり計画によるまちなみの誘導や、用途地域等に商業施設等の誘導を記載しました。

「子育てしやすい環境づくり」においてはボール遊び広場やスケボー広場の整備の他、子育て支援情報をまとめたマップの配布やSNSでの子育て情報の発信を記載しました。

また、文章に「市内における働く場の確保等」を追記し、施策例として「企業立地促進奨励金制度等による市内雇用の場の確保」を記載しました。

「地域資源の活用やみどり豊かなまちづくり」においては、具体的な誘導施策例に「交野市観光マップ」の配布や、桜回廊事業による桜の補植整備を記載しました。

「所有者による空き家の適正管理と有効活用」においては、前回部会では、具体的な誘導施策例を文章に記載していたのを、枠内に移動することで、周りとの整合を図りました。

③安心・安全に暮らせる、災害に強い環境づくりにおいては、誘導施策例として、耐震性の不足した木造住宅を対象とする補助制度や避難行動要支援者の登録制度、防災訓練の実施の他、トイレカーやシャワートラック等の導入について記載しました。

最後に④市民の移動手段の確保においては、誘導施策例として、交野市地域公共交通会議の開催や、高齢者障がい者の方を対象とした外出支援制度、鉄道駅周辺のバリアフリー化の促進について、記載しました。

説明は以上になります。

部会長： ただいま事務局より説明がありましたが、ご意見やご質問があれば挙手をお願いします。

私の方から最初に、2-13 右図「高齢者人口の変化」について、説明では「市全体で高齢者人口が増加する」としている一方で、この図では「一部地域でしか増加していない」ように見えます。図の内容と表現が適切かどうか確認していただきたいです。

また、3-1 はページ番号が複数重複しております。

事務局： 確認のうえ修正いたします。

委員： 交野市には都市計画公園の決定があまりない状況で、そうした点について、何らかの形で反映する必要があるのではないかと思います。児童公園や近隣公園といった施設もほとんど存在せず、そのあたりが弱いと感じております。

事務局： 都市計画公園については、私部公園や星田公園などが都市計画決定されている公園として挙げられ、多くは整備済みですが、一部、未整備の公園も残っています。

都市計画マスタープランでは、整備の進捗とあわせて、将来的な見直しについても検討する必要があると考えております。

また、都市計画公園以外の公園についても、ちびっこ広場等の位置づけを踏まえながら、地域との連携の中で公園機能を考えていく必要があると考えております。

部会長： 記載するのであれば、7-2「子育て層を軸に多様な世代が暮らしやすい居住環境づくり」で「ちびっこ広場」等について触れても良いかもしれません。

委員： 2-17 の表における 1 軒あたりの延床面積について、2021 年の数値が突出しているのはなぜでしょうか。

事務局： 2021 年は、土地区画整理事業において、大規模物流施設の建設等があったことが要因と考えてられます。

委員： 自治体によっては、「市民」に市民団体などを含めている場合もありますが、本計画では統一的な用語や範囲が定められていません。住民ではなく「市民」としている理由を整理しておいてほしいと思います。

事務局： 都市計画マスタープランの策定時にも同様の指摘があったかと思います。詳細については、整理のうえ、後日ご報告させていただきます。

【後日報告内容】

この計画において「市民」とは、市内に住み、学び又は働く人及び市内において事業又は活動を行う法人その他の団体をいう旨を計画内に注釈で追記。内容は交野市基本構想条例第2条「市民等」の定義に準じており、交野市都市計画マスタープランにおいても、同様の定義である。

部会長： 場合によっては、「市民」について注釈を付すことも必要かと思います。確認をお願いします。

委員： 2-17の1軒あたりの延床面積について、住宅が大半を占める中で、2021年は大規模物流施設の建設等により大きく増加しているという補足があってもよいかと思います。

また、年の表記が「平成」と「H」で混在しているため、分かりやすく統一してほしいです。

事務局： 検討します。また、年号の表記は可能な限り統一します。

委員： 2-32の製造品出荷額等について、令和2年から令和3年にかけて大きく下がっているのはなぜでしょうか。

事務局： 確認のうえ、後日ご報告させていただきます。

【後日報告内容】

出典が経済センサス(平成28年、令和3年)と工業統計(その他各年)に分かれていたことが要因と思われ、令和3年は個人経営を含まない集計結果のため、令和2年工業統計と単純比較できないことから本計画においては工業統計のみの記載とする。

委員： 2-21の鉄道駅乗降客数が令和2年、令和3年に落ち込み、令和4年に再び伸びているのはなぜでしょうか。

事務局： 落ち込みは新型コロナウイルスの影響によるものと思われます。

なお、星田駅については土地区画整理事業以降、乗降客数が増加傾向にあると聞いています。

部会長： 令和4年が最新のデータになるのでしょうか。

事務局： 確認いたします。

【後日報告内容】

交野市統計時報令和5年度版記載の令和4年までのデータを使用する。

国土数値情報では令和5年度まで駅乗降客数データが整備されているが、「1日平均値」として示されているため、年間換算の際に若干の誤差が生じ、具体的な調査期間(月次範囲)が不明瞭なため、交野市統計時報のデータと併用することは難しいと判断している。

委員： 5-6の郡津駅周辺の地域魅力向上区域のように、隣接市との境界付近のゾーニング図の範囲の扱いがデリケートであり、表現が難しく感じます。6-34の災害リスクにおけるゾーニング図についても、近隣市との境界にやや微妙な印象を受けます。

事務局： 本計画においては、基本的には交野市域内のみとする考えです。

委員： 交野市の強みが明確に示され、分かりやすくなったと感じております。  
既存の商業施設については、より具体的な計画段階で検討されるものと思いますが、利用者の利便性が中心に記述されています。子育て世代や市民にとって使いやすい施設という観点に加え、長く交野市で商業活動を続けている事業者の意向も考慮してほしいです。  
また、2-45 の公共施設維持コストについて、平成 57 年で一段落し、それ以降は増加していないが、施設が増えれば維持管理費も増えるはずであり、縮小計画などを想定しているのか確認したいです。

事務局： 公共施設等総合管理計画を基にしております。詳細は確認のうえ、ご報告いたします。

【後日報告内容】

公共施設維持コストは、現在の施設規模を維持し続けることを前提としており、本市では昭和 45 年頃から約 10 年間に多くの施設が建設され、その施設の建替えが平成 57 年時点で一定完了することから、その後の施設更新費用が低く示されている。

委員： 公共施設の新設については計画的に進めていく必要がありますが、今後はインフラの維持管理を重視する方針を明記しておく方が良いと思います。歳入は横ばいで、維持管理費は増加する印象があるため、グラフ上で増えていない理由が分かるようにしていただきたいです。

事務局： 検討します。

委員： 公園面積について、交野市は一人当たりの基準は定めているのでしょうか。

事務局： 緑の基本計画において、一人当たり 13 m<sup>2</sup>を目標値として定めています。密集住宅地では 10 m<sup>2</sup>、市街地では 5 m<sup>2</sup>を基準とし、緑の基本計画に沿って整備を進めています。  
また、防災の観点からは都市公園とは別に防災公園を整備しており、一時避難地として位置づけております。

委員： 現況資料の年度設定について、令和 27 年度が最大値のものと令和 32 年度が最大値のものがあり、長期のものでは令和 70 年度まであります。年度を統一する必要はないのでしょうか。

事務局： 出典元となる各資料に合わせて期間を設定しているため、期間を合わせる必要はないと考えております。

委員： 出典によって年度がばらついているという理解で良いのでしょうか。

事務局： その通りです。ばらつきはありますが、本計画においては問題ないと考えております。

部会長： 1-1の趣旨・目的の「創設しました」は、「創設されました」とする方が適切かもしれません。  
また、3-1の「深度化」は「深化」に修正した方が適切ではないでしょうか。

事務局： 確認のうえ、修正いたします。

委員： 8-5の市民の移動手段の確保の評価指標について、市内鉄道駅乗降客数を令和4年の値を基準とするのが適切でしょうか。令和4年の数値にはコロナ禍の影響もあるかと思えます。

事務局： 令和4年はコロナ禍からの回復が進み、生活様式の変化も見られることから、基準値として妥当と考えております。

委員： 2-31について、経営耕地面積が平成27年から令和2年にかけて増加しているのはなぜでしょうか。

事務局： 確認のうえ、ご報告いたします。

【後日報告内容】

「農業経営体の経営耕地面積」の推移を表すグラフに記載ミスがあり、令和2年のみ「自給的農家」を含む値を使用していた。他年との整合を図った結果、令和2年の経営耕地面積は平成27年から減少していた。

委員： 2-43の財政について、本市の歳出に令和元年と令和2年で数値に差があるのはなぜでしょうか。

事務局： 確認のうえ、ご報告いたします。

【後日報告内容】

コロナ禍における給付金等によるものである。

部会長： 貴重なご意見ありがとうございました。最後に全体を通して、何かご意見・ご質問等ございませんか。

特にないようですので、いただいたご意見につきましては、必要に応じて、部会長一任のもと、事務局で素案に反映いただくことにご異議ないでしょうか。

委員： 異議なし。

部会長： それでは、本日いただいたご意見につきましては、素案に反映いただくようお願いいたします。

続きまして、次第の3「その他（今後のスケジュールについて）」に進みたいと思います。事務局より説明を願います。

事務局： 今後のスケジュールについて、ご説明します。

11月13日開催の交野市都市計画審議会におきましては、12月にパブリックコメントにて本素案を公表する旨を委員の皆様にご報告いたします。

部 会 長： ただいま、事務局より説明がありましたが、何かご意見・ご質問等はございませんか。

ないようですので、これで終えたいと思います。

その他、事務局より何かございますか。

事 務 局： 特にございません。

部 会 長： 次回は本部会の本体である交野市都市計画審議会が11月13日に開催される  
とのことで、委員の皆様におかれましては来月も何卒よろしくお願いいたします。

本日は委員の皆様方におかれましては、長時間の慎重なご審議、ありがとうございました。

(以上)